１　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0390600096		
法人名	社会福祉法人平和会		
事業所名	グループホームうえのまち　東ユニット		
所在地	岩手県北上市上野町１丁目７－１		
自己評価作成日	平成26年8月29日	評価結果市町村受理日	平成26年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2013_021_kihon=true&JigyosyoCd=0390600054-00&PrefCd=03&VersionCd=021

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1　岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成26年10月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・開設から4年目に入った。理念を深く掘り下げケアの質を高めたいという職員の提案で、月間目標を見えるところに掲げ、実践できたか話し合いを持っている。出来ないところは継続して取り組み意識の定着を図っている。
・看取りがおおく、以前は職員の不安やケアに対する自己評価が低かったが、現在は出来たところやエピソードについて認め合えるようになってきた。ご家族の思いを汲み取り、ご利用者が最後まで安心して過ごせるよう日々努力している。
・同一敷地内にサービス付き高齢者住宅と小規模多機能ホームがあり、職員は兼務している。職員が連携し、お互いに協力できるようになった。その結果、ご利用者も行き来し、合同で行事に出かけたりと活動が活発になってきている。夏祭りなど施設の行事も、工夫を重ね賑わっている。
・地域の方との交流もすこしづつ広がってきているので、引き続き取り組んで生きたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

北上市街地の北部、上野中学校の近くの住宅地の中に立地し、複合福祉施設として、2ユニットのグループホーム、小規模多機能ホーム、サービス付き高齢者向け住宅と隣接して設置され、連携することによりサービスの質の向上に相乗効果を上げている。グループホーム独自の年度目標として「目かけ合い、支え合い、学び合い、笑顔あふれるグループホームをめざす」を掲げ、また、月間目標も関係職員で話し合い具体性を持ったものを掲げ、その具現化に向け努力している。施設の運営について介護職、看護職、調理担当など各職種の職員が同等に自由に発言できる学習会を設定し、結果を業務改善委員会に諮り、サービスの向上につなげている。外部での研修会等に職員を積極的に参加できるようような体制も整え、支援している。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し具体的に行動できるよう、月ごとの目標を決め目に付くところに掲示している。部署会議で達成できたか話し合いを持っている。	理念に基づく月ごとの努力目標を職員の話し合いによって決め、これを意識しながら介護にあたるよう目に付く場所に貼って、具現化に努めている。現在のGH の目標は「家庭的雰囲気の中で暮らしていただくこと」を掲げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設で行事がある時は、地域の方に来ていただけるよう回覧をまわしている。包括と連携し、高齢者の避難所的な役割を持つこともある。	近隣のボランティアの方が毎週のように来られ、利用者を楽しませてくれる。また、おむつやぞうきんの差し入れをしてくれたり、様々な形で地域の方々から支援を得ている。地域行事への参加、施設の行事夏祭りなどへの近隣の方々にも参加しただき交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に限らず介護全般について話ができるサロンの場を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見を取り入れ改善している。施設の行事に参加し、具体的なアドバイスを頂くことが出来た。	地域包括支援センター職員、地域の代表などで構成されているこの会議で様々な質問、意見等が出される。具体的には建物の周りを非常時のことなどを考慮し、砂利敷からアスファルト舗装にしたほうがよいなどの提案から、改善が図られた事例がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき、会議の中で疑問を解決している。市主催の勉強会に参加し、情報を収集している。	市主催の諸会議、例えばケアマネージメント会議等には必ず出席することとしているし、介護度の更新、介護保険に関することなどについて、その都度電話を含めて指導をいただいている。必要により、消防署や交番の方の助言等頂く機会があればと思われる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間のみ玄関に施錠している。言葉の拘束に注意し、気になることは部署会議で話し合っている。	身体拘束のない介護の指針や研修会で示された内容について、職員会議等で確認し合っている。言葉による拘束などについても充分配慮している。玄関ドアには鈴がつけられ、不意の外出等に配慮されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の資料を配布し目を通している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用している方はいないが、必要に応じて勉強していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時だけでなく、区分変更や更新時に利用料が変わることがあるので、説明し理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプラン作成時に、意見や要望がないか確認している。職員と家族会とで交流会を持ち普段から遠慮なく話しをしていただけるよう心がけている。	家族の来訪時には忌憚なく要望などを述べていただくようにしている。また、家族との交流会や諸行事でも同様である。本人の思いや希望については、身近な担当者がまず対応するようにし、思いが叶えられるようすべての職員が協力するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	問題があればすぐに話し合うが、緊急でないものは月に一度の職員会議で話し合われる。なんでもノートを活用し自由に意見が交換できるようにしている。	月1回の職員会議や臨時の会議の折には自由に発言、提言できるような雰囲気が出来ており、また、「なんでもノート」が用意されていて、気づいたことなどを自由に書き込めるようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長と全職員が面談し、職員の思いを把握し職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が必要と思われる研修に参加するよう促している。研修案内ファイルをつくり、興味のある研修には参加出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	姉妹法人との交流会や花北ブロックの研修会に参加している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居するまでの間に何度か面談し、現在の状態や不安なことなど聞き取りしたり、施設の雰囲気を見ていただくことで不安の解消に努めている。 入居間もない時期は、ご本人の混乱を最小限にできるよう傍にいる時間を多くしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご自宅での生活の様子、ご家族の不安や介護で工夫してきたこと事など聞き取りしながら、ご家族との関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居した時の不安が少しでも軽減できるように、部屋のしつらえや外泊等ご家族から協力を得ている。 生活の様子、ペース、性格、好みの把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器の片付けや洗濯物干し・たたみなど、生活の中で出来ること得意なことを活かしながら、共に暮らし寄り添う関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子を毎月手紙で伝えている。面会時や電話にて近況を報告している。心身の健康状態や生活の様子を把握していただき、ご本人の生活が豊かなものになるようにご家族の協力を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得ながら、自宅に帰ったり、地域のまつりに参加するなど、地域の中に出かける機会が持てるように援助している。	家族の協力のもと、週1回は自宅に泊まりに帰られる方、地域の文化祭の見学、夏祭り、敬老会への家族の参加、さくらホールでの歌舞伎の見学、理美容院へのお出かけなど事業所内に、閉じこもらない介護を実践している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格やお互いの関係を把握し、気の合う同士で交流が楽しめるように工夫している。 全員で行なう活動も企画し、暮らしを楽しめるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時にはいつでも相談に応じる体制であることを説明している。 退所後も近況を伝えてくれたり、夏祭り等の行事に参加してくれる方もいる。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス開始時だけでなく、日ごろの会話の中から希望等を引き出せるように努めている。 これまでの生活暦やご家族からの情報をもとに、ご本人の視点に立って話し合い、援助が行なえるように努めている。	利用者の何気ない会話や仕草から、思いや希望を引き出し、叶えるように支援している。例えば、パルでおやつの買い物をしたい、野菜や花づくりをしたいなどの希望が出た場合は話し合いのもと実現できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	暮らしの情報シートを活用したり、日ごろのコミュニケーションの中から情報収集し把握に努めている。 入居前のケアマネジャーやサービス事業所からの聞き取りもしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定、食事量、排泄状況、体重等の健康状態を把握している。 その日の様子を記録し、変化や気付きを職員間で情報共有することで、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の暮らしについて、定期的に評価し、ご家族にも話し合いに参加していただき計画を作成している。 全職員から意見を集め、より具体的にカンファレンスが行なえるように工夫している。	ケアプランは職員1人で利用者2～3人を集中的に関わるようにする担当制をとっていて、この担当者からの意見、「なんでもノート」などの意見などを踏まえて、定期的に評価し、それに家族の意見などを入れてケアマネジャーを中心に作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の「気づき」を活用し、ケアで気付いたことを情報共有することで、ケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、ニーズに対応できるように話し合いを持ちながら取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の婦人会や中学生、ボランティアの協力を得て行事に参加していただいたり、慰問を受け、暮らしを楽しむことが出来るように支援している。		
30	（11）	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、ご家族と連携をとり、受診時には情報提供や付き添いをしている。 通院が難しい状況になった場合は、訪問診療への切り替えなどご家族と十分話し合い、適切な医療が受けられるようにしている。	施設の関連の医療法人との連携により、かかりつけ医師による密接な医療が確保されている。通院は家族の同伴により行なっているが、家族との話し合いにより、関連施設による訪問診療に切り替えることもある。歯科は訪問診療が主となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と医療連携体制をとっており、週1回訪問を受け、日常の様子や変化等を報告・相談している。 必要時に迅速に適切な対応が出来るよう24時間体制がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への情報提供やお見舞いに伺い、ご本人やご家族が安心して治療が出来るように努めている。 医療連携室やご家族と情報共有しながら、スムーズな退院、退院後の適切なケアに努めている。		
33	（12）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人とご家族の意向を確認し、その後も必要時に話し合い、再確認している。 施設で出来ること出来ないことについても十分に説明し、医師・看護師も含め方針を共有している。	看取りは、家族の意向に沿い、職員の訓練と理解を得て、医師、看護師との連携のもとに行なっている。特に、家族の感謝の言葉などをいただくほか、職員の話し合いにより、看取りへの職員の意識の醸成につながっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の状態確認や対応のマニュアルを作成し、それに基づいて行動できるようにしている。		
35	（13）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行なっている。夜間の訓練も行い、課題や問題について話し合いを行なっている。 震災に備え、食料や水などを準備している。	推進会議の委員の参加のほか、夜7時の夜間訓練を実施し、暗いなかでの訓練を体験することにより、より的確な対応へ取り組んでいる。消防署員や地域住民の参加はない。	夜間は職員が少ないことから、地域住民の訓練への参加を働きかけ、避難者の安全確保、見守りのなどの援助を受ける体制を図ることに期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議で話し合い意識するよう心がけている。職員同士で声を掛け合い、記録時の言葉使いにも注意している。	利用者の意思や人格を尊重し、日頃の言葉づかいを大切にしているほか、パソコンへの入力の文書についても、十分注意を配り、職員の意識の醸成などにつなげ、より利用者の目線にたった対応に、配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の思いを伝えることが出来ないご利用者には、行動や表情などから職員が思いを読み取り援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	やりたいことが出来るようお手伝いしている。落ち着かないご利用者には怪我のないように付き添っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を選ぶことがむずかしい方に対しても、一緒に洋服を選んだり、白髪染めや散髪など整容面にも気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々にあわせた形態で提供している。食器拭きやおしぼりたたみなど、出来るところを職員と一緒に行なっている。	利用者の個性を尊重し、それぞれ食事の提供に対応しているほか、おやつづくりの手伝い、りんご煮の調理、おしぼりの整理や食器拭きなど、出来る範囲で職員と共に行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調を考慮しながら食べやすいものを準備している。食欲がないご利用者には厨房と相談したり、ご家族に準備していただいたものを提供することもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	仕上げ磨きは職員が行い、個別に歯間ブラシやガーゼを使用し清潔の保持に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間オムツを使用していても、立位が可能な方には、日中はリハビリパンツに履き替え、トイレ誘導を行なっている。こまめに声を掛け誘導し清潔が保たれている。	4人（2ユニット）が夜間にポータブルトイレを利用しているが、オムツからリハビリパンツに着替えている。排泄は食事前などにやわらかい言葉で話しかけ、促している。特に、お漏らしなど失敗した時は、体調などの話に変え、利用者の気持ちに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を使用し、状況把握に努めている。食事や水分摂取量を申し送り、状況に応じ好みのものを提供し便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の間隔があかないように確認し、希望に添えるようにしている。体調不良で入浴できないときは清拭し清潔が保てるようにしている。	1月の入浴計画表を作成し、週2回午前中～午後に入浴している。夜間の入浴はない。バイタルチェックにより安全確認を行い、車イス利用者などは二人介護で入浴を行なっている。入浴時の気遣いに配慮し、話や歌などで雰囲気づくりを行なっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況や訴えに応じてお昼寝をしたり、夜間眠れない方に温かい飲み物を提供し、話し相手になりながらタイミングを見て声を掛けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルし、薬効や注意点･副作用など確認している。変更があったときはPCに載せ、職員全員で把握する。ご家族が受診するときも、困らないようにメモを渡し服薬の調整をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	箱作りや洗濯たたみなど、無理がないよう役割を持っていただいている。塗り絵やパズルなど楽しみが続けられるよう、準備や声かけをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お盆や正月は、ご家族と外出することがある。それ以外は、ご利用者の希望を聞きながら、職員が計画し外出している。地域に出かける機会が増えたので継続したい。	お盆や正月のほか、自宅への外泊や畑仕事など定期的に外出する利用者がいるほか、花見、花卉センター見学、高原ドライブなどを企画し、利用者の外出の機会を多くするように配慮している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望時は預かり金から一緒に買い物をしたり、個人の財布を準備し残金を確認している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話で自由に連絡を取り合っているご利用者もいる。一人で電話をかけることが出来ないご利用者には職員が手伝っている。		
52	（19）	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれのご利用者に落ち着ける場所があり、状態に合わせ配置換えも行なっている。窓が広く外の景色から季節を感じることが出来る。	白を基調とした色彩で、清潔感があるほか、エアコンによる個室の温度調節や加湿器により快適な生活環境となっている。ホール内に一人になれる場所や衝立、曇りガラスドアなどにより、個人のプライバシーに配慮した事業所の造りとなっている。インフルエンザ予防の消毒、マスクの利用のほか、床の消毒も実施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれのご利用者の定位置があり、気の合うご利用者同士が話ができたり、一人で落ち着いて過ごす事ができている。		
54	（20）	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の作った作品や写真等を飾っている。ベットやタンスもご本人の状態や使いやすさを考えながら配置している。	ベット、箪笥、床頭台は施設の備えである。その他の家族写真、テレビ、ラジオ、仏壇、腰掛、ラックなど普段利用しているものや思い出の品など自由に持ち込んでいる。布団は各自持参で慣れた環境で就寝できる。畳の希望者には事業所で設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ソファーの配置などを状態に合わせて変更し、安全で自由に生活できる環境を心がけている。		